郵政建築年表

黎明期　　西洋様式建築

和暦 西暦		明治1 (1868)	明治2 (1869)	明治3 (1870)	明治4 (1871)	明治5 (1872)	明治6 (1873)	明治7 (1874)	明治8 (1875)	明治9 (1876)	明治10 (1877)	明治11 (1878)	明治12 (1879)	明治13 (1880)	明治14 (1881)	明治15 (1882)	明治16 (1883)	明治17 (1884)	明治18 (1885)	明治19 (1886)	明治20 (1887)	明治21 (1888)	明治22 (1889)	明治23 (1890)	明治24 (1891)	明治25 (1892)	明治26 (1893)	明治27 (1894)	明治28 (1895)	明治29 (1896)	明治30 (1897)	明治31 (1898)	明治32 (1899)	明治33 (1900)	明治34 (1901)	明治35 (1902)
通信・郵政事業の流れ		駅逓司を会計官のもとに置く		太政官に民部・大蔵など6省を置き、駅逓司は民部省に所属	前島密が新式郵便の創業を建議	郵便の取扱い開始（東京～京都間7日、東京～大阪間7～8時間）。郵便切手の発行開始（竜文切手）。郵便の規則	郵便料金の全国均一制実施。郵便はがきの発行開始。飛脚と称する物貨運送の私営禁止	駅逓寮新庁舎完成（四日市駅逓寮と呼ばれる）	外国郵便開始、郵便取扱所を郵便局と改称、郵便貯金・郵便為替事業創業	小判切手発行	駅逓寮を駅逓局と改称	第2回万国郵便大会議（パリ）。日本代表参加。電信業務開始、外務省に駅逓官を置く、前島密が駅逓総監となる		外国郵便為替の取扱い開始、内務省に駅逓官を置く、前島密が駅逓総監となる	農商務省駅逓局となる	郵便条例公布	郵便物を第一種から第四種に区分。駅逓区編成法・郵便大中線路を制定	貨幣封入郵便物の逓送・配達を内国通運会社に委託	本武揚（）往復はがきの発行開始	郵便局の等級を1等から3等に区分制定	通信省のマークとして「〒」を制定。郵便物保護銃取扱規則を廃止し、郵便物保護銃規則を制定	駅逓寮を駅逓局と改称	郵便物の制度を全国的に実施。郵便の廃止	郵便料金の全国均一制実施。飛脚と称する物貨運送の私営禁止	駅逓寮新庁舎完成（四日市駅逓寮と呼ばれる）	郵便貯金・郵便為替事業創業	小判切手発行	郵便物の取扱開始	郵便物の取扱開始	郵便物の取扱開始

合理主義の展開

明治36 (1903)	明治37 (1904)	明治38 (1905)	明治39 (1906)	明治40 (1907)	明治41 (1908)	明治42 (1909)	明治43 (1910)	明治44 (1911)	大正1 (1912)	大正2 (1913)	大正3 (1914)	大正4 (1915)	大正5 (1916)	大正6 (1917)	大正7 (1918)	大正8 (1919)	大正9 (1920)	大正10 (1921)	大正11 (1922)	大正12 (1923)	大正13 (1924)	大正14 (1925)	昭和1 (1926)	昭和2 (1927)	昭和3 (1928)	昭和4 (1929)	昭和5 (1930)	昭和6 (1931)	昭和7 (1932)	昭和8 (1933)	昭和9 (1934)	昭和10 (1935)	昭和11 (1936)	昭和12 (1937)
鉄道局の誕生 東京・大阪に中央郵便局登場	軍事郵便物の取扱い開始	郵便貯金法公布 船内郵便局を初めて設置	万国郵便条約調印（ローマ条約） 空前の絵葉書ブーム到来	新橋・神戸間に郵便専用列車を開設	郵便貯金現在高1億円 赤色・鉄製・円筒形ポスト正式に登場 自動車輸送の開始	郵便関係職員の制服の規程を制定	年金恩給支給事務の取扱い開始 東京・大阪中央郵便局（一等局）を設置	速達郵便の取扱い開始	年賀郵便物の引受停止	公募した図案を採用した切手（田沢切手）を発行	第一次世界大戦発のため交戦国あて郵便ストップ	東京―横浜間で最初の郵便物航空輸送が行われる 東京駅―東京鉄道局間の日本橋切り替え郵便局間の郵便物輸送	簡易生命保険創業	東京中央郵便局東京駅前に完成		東京―大阪間で飛行郵便を試行	第7回万国郵便大会議（マドリード）。万国郵便条約（マドリード条約）調印	通信事業創始50年紀念祝典を挙行	東京中央郵便局失火により焼失	関東大震災発生・京浜地区の通信機能が麻痺 年賀郵便特別取扱休止	第8回万国郵便大会議（ストックホルム） 通信省に航空局を新設	男子普通選挙実施 東京放送局などでラジオ放送始まる	東京市内の郵便輸送を自動車化。郵便年金事業創業。年賀郵便の引受を中止	万国郵便連合加盟50周年記念式典挙行 万国飛行郵便会議ハーグで開催	簡易保険、国民保健体操（ラジオ体操）を開始	第9回万国郵便大会議（ロンドン）。航空郵便制度開設。 日ロンドン―ベルリン伯号郵便物を搭載して来日		風景印の使用開始。外国郵便の取扱いを尺貫法からメートル法に改正	ラジオの受信契約100万突破	「はがき」に改正。「はがき」の表示を「はがき」に改正 東京中央郵便局新庁舎で業務特別会計法公布	第1回万国郵便大会議（カイロ）。第1回通信記念日式典挙行。 東京―マニラ間で初の国際通話	年賀切手の発行開始 東京中央郵便局に切手自動販売機（英国製）を設置	通信旗の制式、掲揚方法を制定	電信為替・振替貯金払込の取扱い開始 速達を全国的に実施
																																		逓信省
											内田四郎												藤本勝往							和田信夫			
経理局営繕課 通信局営繕課										大臣官房経理課営繕係に縮小						経理局営繕課作	臨時電信電話建設局設置																	東京大阪福岡電信電話事務所
					中央集中型																	監督現場常駐制						鉄筋コンクリート造の時						
																						東京中央電信局の気送管設備、延長約50km						東京中央郵便局へ各種搬送設備導入						
局宇田川・治辺 福井郵便局・旭川郵便局・飯塚郵便局・大門郵便局	局丸佐・松賀 佐賀郵便局・丸松郵便局・大館郵便局	便局大・嶺 大嶺郵便局・可部郵便局・古川郵便局・盛岡郵便局・沼津郵便局・岩沼郵便局・能代郵便局	逓信厳原・郵便局・厳原郵便局・小樽郵便局・亀崎郵便局・江差郵便局・日光郵便局・大曽根郵便局・山下郵便局	局宇田川・治辺 宇治郵便局・米沢郵便局・豊井郵便局・桐生郵便局・江口郵便局	便局通・信 通信省仮庁舎・大東郵便局・小平郵便局・大井原郵便局・沼江郵便局・伊那郵便局・釧路郵便局・大湊郵便局・佐野郵便局・小城郵便局	局御和山・影歌田 御影郵便局・竹屋町郵便局・和山郵便局・松嶺郵便局・加須郵便局・尾鷲郵便局・湯温海郵便局・八幡郵便局・AEGタービン工場（P・ベーレンス）	郵便局信・管理 郵便局・有浦郵便局・青森郵便局・白木崎郵便局・青森郵便局・白石郵便局・木場田郵便局・大工町郵便局・大工町郵便局・東本願寺前郵便局・東本願寺前郵便局・第1次増築（ベーレンス）・熊本逓信管理局・札幌逓信管理局・札幌鉄道局・大宮郵便局・大宮郵便局・郷郵便局・郵便局・郵便局・芝郵便局・名護郵便局・尾鷲郵便局・加須郵便局・湯温海郵便局・八幡郵便局・AEGタービン工場（P・ベーレンス）	郵便局金・現在高1億円 郵便局・有浦郵便局・青森郵便局・白木崎郵便局・白石郵便局・木場田郵便局・大工町郵便局・大工町郵便局・東本願寺前郵便局・第1次増築（ベーレンス）・熊本逓信管理局・札幌逓信管理局・札幌鉄道局・大宮郵便局・大宮郵便局・郷郵便局・郵便局・郵便局・芝郵便局・名護郵便局・尾鷲郵便局・加須郵便局・湯温海郵便局・八幡郵便局・AEGタービン工場（P・ベーレンス）	郵便

木造通信建築

日本的近代建築の追及（郵政スタイル）

多様化への対応

| 年 | 出来事 | 建築 | 設計課 | 施工課 | 建築 | 建築 | 建築

	昭和48(1973)	昭和49(1974)	昭和50(1975)	昭和51(1976)	昭和52(1977)	昭和53(1978)	昭和54(1979)	昭和55(1980)	昭和56(1981)	昭和57(1982)	昭和58(1983)	昭和59(1984)	昭和60(1985)	昭和61(1986)	昭和62(1987)	昭和63(1988)	平成1(1989)	平成2(1990)	平成3(1991)	平成4(1992)	平成5(1993)	平成6(1994)	平成7(1995)	平成8(1996)	平成9(1997)	平成10(1998)	平成11(1999)	平成12(2000)	平成13(2001)	平成14(2002)	平成15(2003)	平成16(2004)	平成17(2005)	平成18(2006)	平成19(2007)
	電話ファックスの営業開始	（スイス、ローザンヌ）。自然保護シリーズ第1回。イリアモテヤマネコ」を発行。郵政省初の「通信白書」	国際ビジネス郵便（EMS）取扱い開始。郵便貯金・郵便為替創業100周年	財形定額貯金の取扱い開始	万国郵便連合加盟100年記念ポストを設置	明治時代の外壁を保存した中京郵便局落成。ラジオ体操50年記念切手を発行	労働争議で年賀郵便物処理が混乱。毎月23日を「ふみの日」と定める	郵便貯金自動支払機（CD）による取扱い開始	郵便貯金自動預払機（ATM）による取扱い開始。エコーはがき発行	郵便作業の効率化を追求した横浜郵便集中局開局	書留通常、小包郵便等の小包配達、小包郵便等の小包装用品「ゆうパック」販売開始	隣家配達、制度実施等の「ゆうパック」	第19回万国郵便大会議（ハ	科学万博開催、ポストカプセル設置。郵便現在高生誕115周年。前島密生誕115周年記念切手を発行	輸送システム改善で鉄道郵便（TPO）の全廃（61・10）。全国翌日配達、全国翌日配達	保険金払い・年金等の郵便振替扱い開始。全国の都道府県に「中央郵便局」を設置	切手の発行開始。第20回万国郵便大会議（ワシントン）	東名高速道路全線開通。スエーデン郵便サービス（ポスタ）。ふるさと郵便（無人郵便局）を設置	ふるさと郵便（無人郵便局）を設置	国際郵便料金値上げ。ポストが赤から黄色に変更。郵便貯金・簡易保険・郵便為替業務の開始	簡易保険主力商品に愛称、養老保険「はーとふるプラン」。終身保険「ながいきくん」	郵便料金全面改正（13年ぶり）	配達記録郵便の取扱い開始	保冷郵便物のパック（チルドゆうパック）取扱い開始	簡易保険「石原裕次郎、美空ひばり、手塚治虫」。懐かしのスター切手」。爆発的人気となる	新型区分機の導入。7けたの郵便番号制の実施。道順組み立て機械化処理。小包郵便物の創設	宝くじの販売等の取扱い開始。ATM・CDデビットカードサービスの開始。デビットカードの取扱い開始	互送金サービスの取扱い開始	郵便局と民間金融機関との相	簡易郵便貯金の開始	郵政事業庁発足。郵便貯金資金の全額自主運用	郵政事業庁発足。郵便貯金資金12兆円	郵政公社発足。定形小包郵便物（ExpackS500）の取扱い開始	日本郵政公社発足。定形小包郵便物（ExpackS500）の取扱い開始	ゆうパックリニューアルの実施	郵政民営化関連法可決・成立。郵政民営化関連法可決・成立。郵便貯金資金の取扱い開始	郵政民営化関連法可決・成立。郵便貯金資金の取扱い開始	フレーム切手販売開始	民営化により日本郵政グループ発足。平成20年用年賀はがきにカーボンオフセット年賀が登場
																													郵政事業庁（総務省）郵政公社（郵政事業庁）郵政事業庁		日本郵政公社				日本郵政（株）
																施設部													▼施設情報部長		▼常務執行役員		▼執行役員		▼執行役（FM部担当）
	武田礼仁			森俶朗		本松智房		清水達朗			市川直人		田口好孝		黒川暢一郎		戸田道男		澤田誠二		尾島勲		野々村俊夫		田代純司		小野俊郎					寺崎由起	
	森俶朗			清水達朗				田口好孝					渋谷英●	戸田道男		澤田誠二	大崎寔義																	
	佐藤亮					酒井康					渋谷英●		阿部敏行		沢田誠二	尾島勲																		
	雨宮益造		本松智房			市川直人					酒井康		黒川暢一郎		後藤英雄																			
						保全室設置			建築調整室設置			建築企画室（建築企画室）（機械化設備標準設計室）				企画調査室設置	資産管理運用室設置																	
						鉄筋コンクリート時																												
													中央指導型と地方の主体性の芽生え																					
																				監督非常駐制														
	身体障害者対策推		省エネ対策の推進			保全システムの確立				OA化の推進				窓口施設の充実																				
	窓口へのエスカレータの導入（日本橋郵便局）		郵便貯金創業100周年記念切手を発行。郵便貯金・郵便為替創業100周年記念切手を発行。郵便貯金・郵便為替創業100周年記念切手を発行。郵便貯金・郵便為替